



〒406-0032
 笛吹市石和町四日市場1592-3
 宗教法人
 「生長の家山梨県教化部」
 TEL 055-262-9601
 FAX 055-262-9605
 発行人：田中 尚
 編集：編集委員会
 E-mail sni-yamanashi@nifty.com
 ホームページ <https://sni-yamanashi.org/>



田中尚
教化部長

私は北杜市、標高1000mの森の中に住んで10年以上になりま
す。今では風の流れや
吹き方、湿度や温度の
変化などから、今日は
天気が下り坂かな？も
う少しで雨になるかな？
などがわかるようになって
きました。小さいころ、
祖母が空の様子を見て
天気を言い当てていた
ことを不思議だと思っ
ていました。が、自然と
の一体感を実感する私
は、少し祖母に近づけ
たようなうれしさを感じ
ています。

さて、2024年4月に公開された、「地球
社会の一員として」宗教
法人「生長の家」布教・
環境方針の基本認識”
にはこのようなことが
あります。

（中略）このような中
で、吾々人類に必要な
ことは、自然と人間を
「別物」と考えて搾取
の対象とするのではな
く、大自然の恩恵に感
謝し、山も川も草も木
も鉱物もエネルギーも
すべて神の生命（いの
ち）、仏の生命（いのち）
の現れであると拝み、
それらと共に生き、そ
れを「いただく」とい
う宗教心である。生

長の家は、この宗教心にもとづく生活の実践こそ、地球規模の広がりをもつ現在の諸問題を解決する鍵であると考ええる。（後略）

“森の中のオフィス”のような自然の中の環境が前の職場であつたことや、私は自然豊かな環境に住むことが好きな人間なので、このような自然との関わりを持つことができたのだと思います。しかし、私たちは自然豊かな環境に住んでいないと、自然との一体感を感じることや、共に生かさせていただくという心を持つことが出来ないのでしょうか？私はそのうは思いません。

確かに豊かな自然に身を置くことで、自然を身近な存在だと思ひ、一体感を感じます。しかし私たちは、自然との一体感をただ感じればよい訳ではないのです。信仰を持つ私たちは、「神・自然・人間は本来一体である」とことを理解し、それを自分の生活の中で、出来る範囲から実践することが大切なのです。

先ほどの基本認識にある、すべて神の生命（いのち）、仏の生命（いのち）の現れであると拝む心を基本として、それらと「共に生

かさせていただく」という宗教心が大切であるということですが、森の中に住んでいなくて、も、これからの季節はご自宅の庭に様々な草花が芽吹いてくると思いますが、名もない草かもしれません。立派に仏の生命を咲かせています。神の生命を顕わしています。それに接した時に、生命の力強さ、美しさを感じる。ことができるはずですが、もし、マンションなどにお住まいの方がいらしたら、ベランダやテールなどで植物を育てることで、同じように感じる、ことができるのではないかと思います。大切なのは、神の生命（いのち）、仏の生命（いのち）の現れと拝む心です。地球上に人間と同じように、神様の命を顕現している生き物であり、それぞれの役割を果たしています。

また地域ごとに、社会貢献活動として清掃活動を実施して頂いておられます。もともと人間が使っていた物を、使い終わったからといって、人が「ゴミ」にしてしまったわけですが、使い終わった人が、資源だと思い回収用BOXに入れていけば、大切な資源となる訳です。

一般にボランティアでゴミ拾いに参加される方々は、ゴミを拾うことが社会貢献と思われるが、ゴミ拾いを行われているかと思いません。それはそれでとても素晴らしい活動です。しかし信仰を持つ私たち生長の家の信徒は、ゴミは本来ゴミではなく、心無い人が単にゴミとして捨てただけであり、神の生命の現れであることを理解して、もう一度リサイクルを通して大切な資源として活かさせて頂くという、感謝の気持ちで「資源拾い」をすることが大切だと私は思うのです。ここが一般の方々と、信仰を持つ私たちの活動の違いです。

布教・環境方針の「行動指針3・環境負荷の軽減」ではこのように続きます。

吾々は地球温暖化、オゾン層破壊、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など、環境破壊や気候変動から生まれる人々の生活基盤の劣化の軽減に貢献することを目指す。その一環として自然界のクリーンなエネルギーの利用を進める技術の発展と、地域の生活基盤の向上への努力を一層強力に推進することの価値を認め

る。(後略)

昨今話題になつて
いる「資源拾い」は、
正に環境負荷の軽減の
実践そのものです。捨
てられたペットボトル
や缶などを回収・リサ
イクルして再利用する
ことは、鉱物資源の無
駄な採掘を抑えると共
に、捨てられていた尊
い資源に生命を吹き込
むことになります。

「神・自然・人間は本
来一体である」という
ことをここで言い換え
れば、神様の御前にお
いては自然も鉱物資源
も人間も、すべては神
の生命、仏の生命の現
れであるから一体であ
るのであり、大切な自
然の恩恵に感謝し、太
切な資源を活かすとい
う、宗教的な意義があ
ると言うことです。自
然も鉱物資源も、自分
自身のように慈しみ、
大切にすると宗教心をもつ
て、自然と資源を大切
にする活動を、皆様の
ご理解と賛同を基に進
めていきたいと思いま
す。どうぞよろしくお
願いいたします。

白鳩会

笑顔あふれる

「福寿の会」
連合会副会長

「福寿の会」は、70歳以上の方の真理を学ぶ勉強会です。

隔月で長坂地区と甲府地区で開催されています。皆さん、「福寿の会」で田中尚教化部長の御講話を頂くことをとても楽しみにしているのがひしひしと伝わってきます。

2月3日月曜日、甲府地区「福寿の会」では、田中尚教化部長が谷口雅春先生著『生命の讃歌』の中の「光への道」を使ってご指導くださいました。

○もっと気高く生きよう！

○神様の命、神様の心を自分の心の想いとして生きる。

○神様の心を想っていると神様の行動になる。自分のなすことが神様の心になる。

○他を助けよう、他のためになろう、他に愛を注ごう、愛を注げば、愛が自分に還ってくる。

○神様の御心を生きることが使命である。

○他の人に愛を与えることは、結局は自分に愛を与えることと同じであり神様から祝福されます。

○悪い人は1人もいない、悪いことを語った時が悪い人です。

○どんな人生をも作ることができる。

と御講話くださいました。

「福寿の会」の参加者から素晴らしい沢山の感想が寄せられました。

①久しぶりに真理のお話を聞かせていただいた、繰り返し真理のお話を聞きたいです。

②亡くなった主人の声を録音して毎日聞いています。自分が若くなつた気がします。もっと気高く生きようという生命の讃歌が素晴らしいと思いました。

(77才)

③使命を生きる祈りを毎日しています。『生命の真相』は前回読みましたが、谷口雅春先生に申し訳ないと思い、1巻から36巻まで読み進めました。霊界に行くまであと4巻完読したいです。

④主人が亡くなり、寂しくて家にずっといました。福寿の会に誘われて参加して久し

ぶりに真理に触れ心が明るくなり、悲しんでいる前向きに生きよう前に進もうという気持ちになりました。参加して本当に良かったです。

(86才)

⑤言葉の力が運命を作る福寿の会のお話を聞くと心配事が心から離れます。明るい言葉を使うように心がける、マイナスを見ないで一日一日を前に向かって進みたい、感謝して毎日を生きたいです。

(79才)

⑥これからの人生は恩返し、一歩でも二歩でも前に向かって進んでいきたいです。

(92才)

人生の先輩、生長の家の福寿の会の皆様、長く信仰されている方の感想は心に響きます。生長の家山梨教区の「福寿の会」は、長坂地区が「奇数月」、甲府地区が「偶数月」に開催されています。心より皆様のご参加をお待ちしています。



相愛会

「世界有数の
菜食国家だった
日本を振り返って」
連合会副会長



合掌、ありがとうございます。

環境保護や動物愛護への意識が世界的に高まりつつある近年では、動物性食品をなるべく食べない「ヴィーガン」な食生活を実践する人が増えています。

とはいえ、この流れが特に顕著なのは主にイギリス、アメリカ、オーストラリアなどの欧米圏で、日本ではまだ一般的とは言えないのが現状です。むしろ、日本の多くのテレビ局

では、グルメ番組や料理番組の中で肉料理が頻繁に取り上げられています。

しかし、実は、日本はかつて世界有数の菜食主義国家だったことは、皆さんご存知だったでしょうか？

今の日本のようにハンバーガー店や焼き肉店がなかった時代、ごく自然に日本では菜食中心の食生活がなされていた。

当然、私が子どもの頃、母親が作ってくれた食事といえば、焼魚、母親手作りのうどん、そば、芋やひじきの煮物など菜食系の食品がほとんどでした。

飛鳥時代に仏教が伝来すると、動物の殺生を禁ずる仏教の教えによつて「肉食は悪」という考えが広がり、度々「肉食禁止令」が出されました。675年、天武天皇によつて出された肉食禁止令が、日本で初めて出された「肉食禁止令」だと言われています。

また、江戸時代中期、江戸幕府第5代將軍・徳川綱吉が出した「生類憐みの令」によつて、動物を殺して食べることが全面的に禁止されました。特に、日本で犬肉を食す文化は根付かなかったのはこの政策の名残とも言われています。

この飛鳥時代から江戸時代の人々の食生活こそが、現代につながる健康的な食文化の原点だそうです。

江戸時代、庶民の食事は「ご飯・味噌汁・漬物」という「一汁一菜」が基本でした。

漬物は、たくあん、梅干し、ぬか漬け、らっきょうなど、今でも私たちが食べているものが食卓に並べられていたそうです。また、味噌汁には、ワカメや海苔といった海藻類が入っていたそうです。

このように江戸時代の人々は、基本的にヘルシーでバランスの良い食生活を送っていたことがわかります。

欧米の人々が環境保護や健康面から日本の和食を中心とした食文化を見習おうとしている反面、日本人は肉やパンを食べる人が増え、米、野菜、海藻類、魚介類を食べる人が減つて脂質の摂り過ぎと栄養成分の偏りが懸念されています。

今こそ、環境保護並びに動物愛護の観点からも「生長の家」で説く「一汁一飯」を中心とした食生活を積極的に実行していこうと思います。

再拝

地方講師会

「クラフトバンドで
楽しい手づくり」
地方講師

「クラフトバンド」と聞いて「ああ、あれねー」と思う方もいれば「初めて聞いた」という方もいると思います。クラフトバンドとは再生紙を使った手芸用の紙ひものことです。紙ひものが十二本程度横につながっていて、一本のバンドのようになっています。また、クラフトバンドは「エコクラフトテープ」や「紙バンド」とも呼ばれています。

私は山梨県に来てから、クラフトバンドでかごなどをつくるようになってきました。きつかけは、おたまなどの調理器具を入れるかごがほしかったからです。以前住んでいた奈良県の家では、シンクの上のところに棒が数本渡り、調理器具をかけることができました。しかし、現在住んでいる家には、そのような棒はなく、すべて引き出しにしまわないといけなくなりました。山はたびたび崩

れていました。そのため、かごが必要になったのですが、ちょうどいいかごを探しに行くよりも、一度つくってみようと考えました。その際、材料として思いついたのがクラフトバンドでした。近くのホームセンターでクラフトバンドを買い、引き出しの奥行きや高さを測り、それに合うような長さにクラフトバンドを切って、準備を整えました。いざ、つくり始めてみると、初心者には大きすぎたようで、なかなか進まず「やつぱり買えばよかったかなあ」と心が折れそうになるときがありました。しかし、毎日少しずつ、一つひとつ編み進めていくうちにどんどんかこの形になっていき、一カ月ほどで完成しました。



実際に引き出しの中に入れてみると、大きさはちょうどよく、すべての調理器具もきれいに収まりました。このかごのおかげで、調理器具の山が崩れることもなくなりました。

また、とても丈夫で三年以上たった今でも我が家で毎日活躍してくれています。それ以降、頻度はそれほど多くありませんが、ミニイベントに参加したときなどにクラフトバンドでかごをつくっています。大物は完成するのにとても時間がかかることを覚えたので、かわいいう角のかごばかりつくっていました。ところが、昨年は初めて丸いかごにも挑戦しました。丸いかごは四角いかごととは作り方が異なり、本の説明や図を見ながら、試行錯誤を繰り返して、完成形をイメージしつつ編み進めました。最後の工程で、縁の部分に飾りをつけてみると、おしゃれさが増し、クラフトバンドのいろいろな編み方を覚えていくことの楽しさを知ることができました。



トで購入することができず。また、制作するときには最低限必要な道具は、メジャー・洗濯ばさみ・ボンド・洗濯ばさみなので、道具選びで悩むことがほとんどなく、気軽に始めやすいのではないかと思います。また、失敗したときもやり直しがききやすいことや、けがをしにくいところもクラフトバンドを制作するときのメリットだと思います。最近ではYouTubeなどでも作り方の動画がアップされているので、本などでは細かいところがわかりにくくても、画面上で実際にじっくりながら、わかりやすく解説もしてくれています。

生活の中でちよつとしたかごが必要になったときは、クラフトバンドを使って一度手づくり挑戦してみたいかがでしようか。

次に「建国記念の日」を2月11日にお祝いするので、「紀元節」を斉唱しました。

※日本は、キリスト教が生まれる約660年前に最初の天皇が即位され(神武天皇)、その血縁は現在の126代目の天皇陛下までずっとつながっています。

これは日本の天皇制度の始まりが神からつながっていることとされ、世界でも珍しいことです。又、「節分」についてお話ししました。

※昔神様が鬼たちに煎った豆を与えて、「鬼たちが豆を育てて実らせることができたなら人間を食べてもいい」と約束をしましたが、煎った豆は実らず人間達は無事だったそうです。

他にも「おはしのかみさま」の紙芝居と「さんねん峠」の絵本を読みました。

いずみ生命学園

開催日…2月1日(土)

13:00~15:00

開催場所…北杜市大泉

10区公民館

はじめに朝礼で開会の祈り、大調和の神示、閉会の祈りを全員で行いました。『神さまと自然とともにある祈り』は、Aさんが読みました。

次に「建国記念の日」を2月11日にお祝いするので、「紀元節」を斉唱しました。

※日本は、キリスト教が生まれる約660年前に最初の天皇が即位され(神武天皇)、その血縁は現在の126代目の天皇陛下までずっとつながっています。

これは日本の天皇制度の始まりが神からつながっていることとされ、世界でも珍しいことです。又、「節分」についてお話ししました。

※昔神様が鬼たちに煎った豆を与えて、「鬼たちが豆を育てて実らせることができたなら人間を食べてもいい」と約束をしましたが、煎った豆は実らず人間達は無事だったそうです。

他にも「おはしのかみさま」の紙芝居と「さんねん峠」の絵本を読みました。

※「おはしのかみさま」の主人公の男の子は、まだお箸が使えません。そこにお箸の神様が姿を現してお箸の歴史や、お箸はとても便利であることを教えてあげました。



※「さんねん峠」は、ころぶと3年しか生きられないといわれている峠のお話です。

ある日この峠で急いでいるおじいさんが転んでしまい、病気で倒れました。おじいさんの助けを求め、おじいさんを助けるために、おじいさんの孫は、おじいさんの伝言を聞いて、おじいさんを助けることにしました。

「一度転ぶと、三年生きるなら、二度転べば六年、三度転べば九年生きるはず……」とおじいさんに伝えました。





おじいさんがその通りにすると、あらびっくり！みるみるうちに元気になっていきました。それから、さんねん峠は転べば長生きすると言われるようになったということなんです。

朝礼の後は、小さな箱を折って、箱の正面に折り紙で折った鬼のお面を付け、中にはお豆を入れました。

また、B地区連長からケーキを頂きました。いつもありがとうございます。



生長の家春季記念日・生長の家総裁法燈継承記念式典

三月一日、あたたかい日差しの下、生長の家国際本部「森の中のオフィス」イベントホールにおいて、「生長の家春季記念日・生長の家総裁法燈継承記念式典」が執り行われました。

今回は、山梨・長野両教区の幹部・会員から参列させていただけることになり、山梨教区からは三十名参列されています。

当日は、聖歌斉唱や、体験発表等の後、生長の家総裁・谷口雅宣先生のお言葉を拝聴し、感動と喜び溢れる一日となりました。

国際本部で年祭に参列させていただき、心より感謝申し上げます。



教化部長挨拶



万歳三唱

建国記念の日祝賀式 先祖感謝供養祭

二月十一日、十時三十分から教化部において「建国記念の日祝賀式」が厳かに執り行われ、ネットも含め三十名の方が参列されました。

その後、「先祖感謝供養祭」が執り行われ、一〇〇柱、童子一〇〇柱の霊牌が招霊されました。

祝賀式と御祭の中でそれぞれ教化部長挨拶があり、感謝を深める一日となりました。

ご参列いただきました皆様、心より感謝申し上げます。

又、生長の家とは関係ない方で一人暮らしの方で、オープン食堂が始まった当初から、毎回食べに来て下さる方がいます。毎月、オープン食堂を忘れずに利用して下さい。今月も来て下さいました。来る毎に美味しい食事と皆さんとの会話を楽しまれて帰って行かれる様子を見て行くと、このオープン食堂が、一人でも多くの方の憩いの場、楽しみの方の場になった。

オープン食堂

二月十五日、教化部において、「オープン食堂」が開催され、運営も合わせて十六名の方が参加されました。

今回のメニューは、ゆかりご飯、根菜具沢山コーン入りすいとん、フルーツきんとんでした。



ていつてほしいです。お越しいただきました皆様、運営委員の皆様、心より感謝申し上げます。

教化部清祓式

今年は石和に教化部が移転して30年目に入ります。そこで、清祓式の行事を教化部において4月7日(月)に執り行います。

詳細は山梨教区Facebookグループでお知らせいたします。ネットでのご参列をお待ちしております。

ゴールデンウィーク 休館日のお知らせ

4月29日(火・祝) 昭和の日
5月3日(土・祝) 憲法記念日
5月4日(日・祝) みどりの日
5月5日(月・祝) こどもの日
5月6日(火・祝) 5/4振替休日

普及誌4月号(2/8締切) 新規購読者

ご紹介くださいましたみなさま
ありがとうございます。

2名(白鳩会・上阿原支部、下部支部)

聖使命会員 新規入会・転入・復活者

聖使命会員は神様とのパイプを繋ぐ幸福への近道です。
1～2月度 おめでとうございます

1月 新規 1名
(白鳩会・大泉東寮支部)

転入 1名
(相愛会・長坂相愛会)



2月 新規 なし
転入 5名
(白鳩会・長坂空の丘支部)

※今回、復活の方はいません

※今回より、個人情報保護の観点から、普及誌の新規購読の方、並びに、聖使命の新規・転入・復活の方のご芳名は掲載せず、人数のみの掲載とさせていただきます。ご理解のほど、宜しくお願いいたします。

2025年(令和7年) 4月9日(水) 12:00～13:30
場所: 生長の家山梨県教化部

生長の家 オープン食堂

健康的な ^{ノーミートの} 昼食は
いかがですか?



ノーミート料理にこだわる理由

地産地消

できるだけ山梨県産の食材を使い、
輸送にかかるCO2を抑えています。

旬産旬消

旬の食材を使うことで、環境への負荷を
低減し、健康に配慮しています。

無農薬

信徒の畑で採れた野菜などを活用
し、無農薬を心がけています。

有機栽培

農作物本来の味を引き出し、生物多様性を
保全する効果が期待できます。

教化部でご購入いただけます

生長の家の幹部会員必携の冊子
「私たちの運動をつくらう」
生長の家国際本部運動企画会議編集
▼B6判・128頁▼360円
▼宗教法人「生長の家」刊
組織会員の第一線での活動を
サポートする手引書として製
作された、生長の家の幹部・
会員必携の冊子。

「先祖感謝供養祭」

(毎月開催、以下は直近2カ月の日程)

日時: 4月13日(日) 10:30～12:00
5月11日(日) 10:30～12:00

当日は、Facebookグループ生長の家山梨教区でライブ配信します。

※ 霊牌は、教区の御祭後、宇治別格本山に送られ、1年間通して「聖經・讃歌」の読誦によって供養されます。

第 44 回 生光展

開催時期が
変わりました！

—— 作品募集中！ ——



ぜひご出品
ください！

募集期間 2025 年 3 月 1 日(土) ~ 4 月 13 日(日)

作品募集要項の冊子は、教化部または道場の事務局まで

テーマ

「四季を見つめる」「いのちの息吹」

※このテーマは 3 年通して変わりません

展示期間 2025 年 6 月 14 日 ~ 6 月 23 日

募集作品 趣旨・テーマに沿った生長の家の聖使命会員が制作した
絵画・彫刻、手工芸品

会場 生長の家原宿“いのちの樹林”内光明の塔

自作のクラフト作品や水彩画などをこの機会に出品してみませんか？
皆さまのご応募をお待ちしております。

【お問合せ】0551-45-7735 (生光展事務局)

オンライン申込
フォーム▶

